

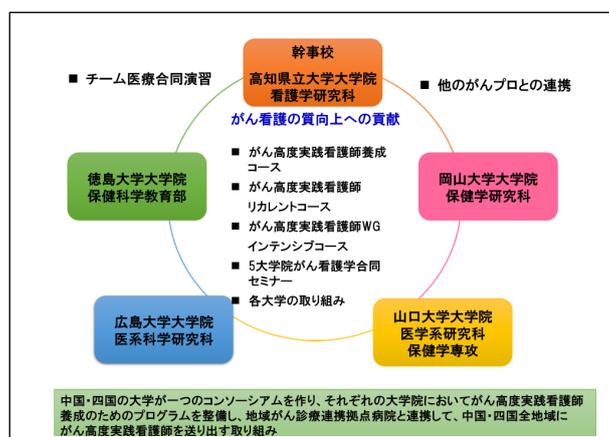
7. がんプロフェッショナル基盤推進プラン

1) はじめに

文部科学省の多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランのもと、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムにおいて「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」事業として様々な取り組みを行っている。本学は、高知県立大学大学院・岡山大学大学院・徳島大学大学院・広島大学大学院・山口大学大学院の5つの大学院で組織されるがん高度実践看護師ワーキンググループ（以下WG）の幹事校として活動し、がん看護専門看護師の養成およびがん看護の質向上に向けた取り組みを行っている。本学では、令和2年度は38単位のがん高度実践看護師教育課程の修了生を3名輩出し、1名の修了生ががん看護専門看護師の認定を受けた。

2) がん高度実践看護師WGの活動

がん高度実践看護師WGでは、「1.がん高度実践看護師の養成」「2.がん看護の質向上への貢献」を活動テーマに挙げ、①各大学によるがん高度実践看護師の育成、②がん高度実践看護師リカレントコースの開講、③がん高度実践看護師WG講演会の開催、④5大学院がん看護合同セミナーの開催、⑤11大学院チーム医療合同演習への参加(教員はFD) ⑥HPなどによる広報活動、⑦各大学におけるセミナー・別講義の開催、⑧修了生に対するがん看護CNS認定試験までのサポートの8つの活動を行った。



3) 高知県立大学の取り組み

高知県立大学大学院では、「1. がん高度実践看護師の養成」、「2. 看護職の看護実践能力の向上を目指す教育活動」の活動のテーマとして、以下の取り組みを行っている。

がん高度実践看護師の養成では、正規の38単位の教育課程のプログラムに加え、がん看護実践を豊かにする取り組みを行っている。看護職の看護実践能力の向上を目指す教育活動には、リカレント教育としてのがん高度実践看護師（APN）コースⅡ、がん看護インテンシブコースⅠ、がん看護インテンシブコースⅡがある。

(1) がん高度実践看護師の実践力を豊かにする取り組み

令和2年度は、38単位のがん高度実践看護師教育課程の修了生3名を輩出した。がん看護実践看護師教育課程に加え、がん看護実践を豊かにする取り組みとして、以下のような取り組みを行った。

①がん高度実践看護師（APN）セミナー

日時：2020年6月12日（金）、6月18日（木）、6月29日（月）、7月10日（金）、7月15日（水）、7月16日（木）の6日間

場所：高知県立大学看護学部棟C322

参加者：各回2～4名（がん看護学領域学生 6日間合計14名）

高知県内で活躍する修了生のがん看護専門看護師より、高度実践看護師としての役割機能別の活動や各々の立場における活動の実際についてご講義いただいた。学生は先輩の活

動から、CNS の役割機能を具体的にどのように発揮するのか、高度な看護実践とは何かを学び、自身の目指す高度実践看護師に向けて課題を見出すことができていた。

②5 大学院がん看護学合同セミナー

日 時：2020 年 8 月 1 日（土） 9：00～17：00

場 所：徳島大学 Web 開催

テーマ：「がん患者におけるリンパ浮腫と症状マネジメントの実際」

講 師：井沢 知子 先生（京都大学大学院医学研究科 がん看護専門看護師）

高西 裕子 先生（徳島大学大学院保健科学教育部 リムズクリニック看護師）

鴨須賀 紀弘先生（ソルブ株式会社メーカー事業部・リンパ浮腫チーム）

参加者：30 名

がん高度実践看護師WGの大学院に在籍するがん高度実践看護師コース大学院生を対象としたリンパ浮腫ケアセミナーを毎年開催しており、本学からは 2 名の学生が参加した。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み 1 日の Web 開催であった。学生は講義を通して、リンパ浮腫のメカニズムや症状マネジメントの実際を学び、高度実践看護師として科学的根拠のもとアセスメント、実践、評価を行うことの重要性を学んだ。また、ケアを可視化するための評価指標やツールを用いることや患者へのセルフケア支援について改めて学ぶ機会となった。

③がん高度実践看護師（APN）コースⅠ：専門看護師の育成

◆Life を支える高度実践看護師養成コース

～がん患者と家族のライフステージのニーズに応える高度実践看護師養成～

目 的：がん患者と家族のライフステージのニーズに応えるがん高度実践看護師および、がん看護をサブスペシャリティとする高度実践看護師の養成を目的とする

対象者：高度実践看護師コースに在学中の学生

コース内容：がん高度実践看護師（APN）コースⅡと同じ

参加者：7 名（がん看護領域 4 名、老人看護領域 3 名）

(2)看護職の看護実践応力の向上を目指す教育活動：リカレント教育

①がん高度実践看護師（APN）コースⅡ

がん高度実践看護師（APN）コースⅡ：専門看護師・認定看護師のリカレント教育

◆がん看護の専門性の高い看護師養成コース

～Cancer Trajectory をたどる人のニーズに応える高度実践を創造する看護師の養成～

《コースの概要》

目 的：ライフステージやがんの特性を考慮して、がんとともに生きる人とその家族の健康と生活に関わるニーズに応えられる専門性の高い実践ができる看護師の養成

対象者：専門看護師、修士課程修了生、がん看護領域の認定看護師

テーマ：高齢がん患者の治療とケア アドバンスト編

履修科目：4 単位 60 時間 高齢がん看護基盤論 高齢がん診断治療学 高齢がん看護実践論
高齢がん看護展開論

履修期間：2020 年 9 月 5 日（土）～2021 年 2 月 7 日（日）（このうち 8 日間）

修了要件：コースで定める 60 時間のうち各科目 8 割以上履修した者には、高知県立大学からの修了証を交付

場 所：高知県立大学池キャンパス看護学部棟 Web(Zoom)開催

*本年度は COVID-19 の影響を鑑み Web(Zoom)開催となった。

参加者：28 名

がん高度実践看護師（APN）コースⅡは、専門看護師・認定看護師のリカレント教育を目的としたプログラムである。2020年度は『高齢がん患者の治療とケア アドバンス編』をテーマに、高齢がんの診断や治療に関する知識、高齢がん看護に関する専門的な知識と技術を学び、高齢がん患者のニーズに対応することのできる専門性の高い看護実践力の修得を目指して実施し、26名の修了生を輩出した。研修生は高知、香川、愛媛、徳島、鳥取、岡山、広島、山口から参加しており、がん看護専門看護師、老人看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、認知症看護認定看護師であった。

8日間のコースでは、講義やグループワーク等で知識を修得したのち、最終日は、既習の理論や現状、課題をふまえて、高齢がん患者の特徴を有する6事例のグループワークを通して、高齢がん患者への看護実践に向けて知識の統合と患者理解を深め、新たな視点を含めた看護援助を考案することができた。

《研修生の学び》

受講生の「老人看護の基本からかなり高度ながん看護について学ぶことができた」「患者さんの発達課題や年齢による患者理解の視点や活用する理論について理解が深まった」「高齢者のアセスメントについて学ぶことができ、それを加えたがん患者のアセスメントができるようになった」「高齢がん患者の身体的・社会的特徴を理解することから始まり、治療に基づく根拠、生活していく上での視点、また事例を通したグループワークではその方や家族にとって必要な看護実践を展開していくことを学ぶことができた。」などの声や授業評価、アンケート結果から目的を達成できたと考える。また、実事例を用いて看護援助を考案したことで、修得した知識や技術の実践への活用方法を学ぶことができ、看護実践能力の向上につながる研修となった。

②インテンシブコースⅡ：がん高度実践看護師WG講演会

日時：2020年12月5日（土）13：00～16：40

場所：高知県立大学池キャンパス Web（Zoom）開催

テーマ：遺伝性腫瘍と生きる患者へのがん看護

講師／テーマ：「がんゲノム時代の遺伝性乳癌卵巣癌診療」

高島 大典 先生（高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
乳腺外科科長）

「がんゲノム医療時代に必要な、がん看護・遺伝看護の視点と実際の関わり」

大川 恵 先生（聖路加国際病院 遺伝診療部 遺伝看護専門看護師）

参加者：79名

がん高度実践看護師WGでは、「ライフステージの様々な新ニーズに応える看護の質向上を推進する看護師養成」を5年間の全体テーマとし、2020年度は「遺伝性腫瘍と生きる患者へのがん看護」をテーマに、講演会をCOVID-19の影響を鑑み、Web（Zoom）で開催した。講演会には、四国4県、岡山、鳥取、島根、大分、北海道等から、遺伝性腫瘍のがん看護に関心の高い看護師、社会福祉士、教員、大学院生等79名の参加があった。参加者アンケートでは、「遺伝性腫瘍と生きる患者へのがん看護」について、回答者48名全員が具体的に分かった、講演内容に満足したと回答し、がん看護に関する知識が増えた（66.7%）、がん看護に関する興味・関心が高まった（47.9%）、がん看護に対する視野が広がった（62.5%）と回答していた。また、回答者全員が、がん看護の専門的な学習を深める意識を高める動機付けになったと回答していた。さらに、「治療選択の根拠の理解が深まった」「遺伝性がんへの不安をもつ患者や家族への対応の幅が広がった」「何を困っているのかを知り、その人の暮らしを支えるよう看護師が関わっていくことが重要」「遺伝看護の実践事例が具体的なイメージにつながった」

などの意見があった。ゲノム医療の基礎的な知識やがんゲノム医療の提供体制と課題、がんゲノム医療でのチーム医療の重要性、遺伝性腫瘍とともに「生きる」を支える看護職としての役割について考える機会となった。

③インテンシブコース I

～高齢がん患者に安心をもたらすケアを創造していく訪問看護師育成～

《コースの概要》

目的：高齢がん患者の入院早期から退院後の生活を見通してケアを提供し、在宅医療の可能性と選択肢を広げることのできる看護職および、チーム医療を基盤とする在宅がん医療をコーディネートしていくことのできる、高齢がん患者とその家族のケアに関する専門的知識と技術を有する看護職の養成

目標：

- 高齢がん患者や家族の理解に必要な基礎的な知識を習得し、高齢者の特徴を踏まえた総合的なアセスメント、看護ケアが実施できる
- 高齢がん患者のがんや治療、生活の場の特性を理解して、治療・療養・生活過程を支えるケアを提供することができる
- 地域包括ケアシステムにおける高齢がん患者や家族のケアに必要な専門的知識・技術を習得し、必要な資源や支援を調整することができる
- 高齢がん患者の在宅療養生活を維持するための必要な身体管理の知識・技術を習得し、実践できる
- 高齢がん患者の意向を尊重したその人らしい療養生活や看取りを実現するために必要なケアが実践できる
- 看取りをした遺族に必要な看護ケアを理解するとともに、関わった職種のスプレスマネジメントが行えるように、デス・カンファレンス等の場を調整することができる
- 研修を通して自己洞察を深め、高齢がん患者に対する専門性の高い看護師としての意識をもち、病院と在宅をつなぐ在宅療養支援および看護実践力の高い訪問看護師として機能することができる

対象者：中国・四国地方に在籍する、高齢がん患者の看護に携わる訪問看護師および在宅移行支援の必要な高齢がん患者の入院病棟および外来、地域連携室等の看護師

研修期間：

講義／演習：2020年10月3日（土）～2021年2月20日（土）（このうち11日間）

見学実習：2021年1/12（火）～2/12（金）（このうち平日の3または4日間）

履修内容：講義、演習、見学実習、実習の振り返りと自施設での実践、事例検討を含めた90時間（表1カリキュラム表）

修了要件：コースで定める60時間のうち各科目8割以上履修した者には、高知県立大学からの修了証を交付

場 所：高知県立大学池キャンパス看護学部棟3階 C309、C313、C112

12月19日、20日はWeb（Zoom）で受講

参加者：5名

平成30年度より新たにスタートしたがん看護インテンシブコース I は、高知県の在宅高齢がん看護、高齢者看護、在宅医療や福祉に携わる機関や多職種と協働し、高齢がん患者のケアに特化した研修である。また、座学だけでなく、e-learning、シミュレーション教育、自施設での実践を取り入れ、講義－演習－実習をつなげる15日間の現任教育のプログラムである。2020年度の受講生は5名であり、高知県内で在宅療養支援診療所、病院に勤務す

る看護師であった。COVID-19の影響により、一部、遠隔での講義や演習に制限が加わり、見学実習が自己学習に変更となった。

《研修生の学び》

受講生からは、「がん患者の看護、高齢者の看護の基礎的な知識から、在宅療養の視点や家族支援、意思決定支援等の知識を得ることができ、今後の看護に活かすことができる。」「認知機能の低下がみられ始めていても、客観的なアセスメントを行い、その人の持てる意思決定能力を判断し、患者の意見を反映させる事の重要性がわかった」「日々の実践の中での課題が解決できる内容であった」「臨床の場ですぐに役立つものであった」「高齢がん患者の在宅での看護実践の倫理的問題について、グループで意見を出し合いながら解決に向けて取り組むことができた」などの声があり、高齢がん患者の在宅療養を支援するための様々な知識や技術を学び、新たな気づきや視野の広がりを得ることができた研修であったと評価できる。今年度、新たに取り組んだ自施設実習では、受講生が各々の現場でこれまでの学習内容を実践に活用することができていた。また、自己学習や自施設実習内容についてのディスカッションを通して、知識や技術を受講生自身の中に落とし込むことができ、実践に活用する自信や意欲につながっていた。今後、受講生各々の現場で研修の学びを発揮し、講師や研修生同士のネットワークを強化していくことで、高知県内における高齢がん患者の在宅療養移行支援及び訪問看護の充実につながると考える。

表1 カリキュラム表

	カリキュラムの内容	時間	方法
1	オリエンテーション	0.5	
2	高齢がん患者のQOL	2	講義
3	高齢がん患者と地域包括ケアシステム	2	講義
4	高齢がん患者の在宅療養移行支援	3	講義・演習
5	高齢がん患者の在宅生活におけるセルフケア	2	講義・演習
6	高齢がん患者のアセスメント：身体的側面	2	講義
7	高齢がん患者の治療 ①がん化学療法、②がん放射線療法、③ストーマおよびストーマ周囲の皮膚トラブルに対する看護、④看護がんの治療により生じる有害事象への看護(口腔ケア)	9	講義・演習
8	高齢がん患者の在宅での症状マネジメント ①疼痛 ②呼吸困難	5	講義・演習
9	高齢がん患者の在宅医療	2	講義
10	高齢がん患者の認知とケア	2.5	講義・演習
11	高齢がん患者の意思決定支援	3	講義・演習
12	高齢がん患者の家族と家族ケア	2.5	講義・演習
13	高齢がん患者の栄養	2	講義・演習
14	高齢がん患者の看護倫理	2.5	講義・演習
15	高齢がん患者のエンド・オブ・ライフと在宅での看取り	4	講義・演習
16	自施設での実践日3日間	18	実践・実習
17	見学実習3～4日間（下記の中から選択：複数可） ①訪問看護ステーション②在宅療養支援診療所 ③調剤薬局 ④がん診療連携拠点病院	18(24)	見学実習
18	実習の振り返りを交えた事例検討と修了式	7	事例検討